

前立腺癌 Adaptive Radiotherapy における kVCBCT の有用性についての検討

●はじめに

近年放射線治療は悪性腫瘍に対して有用な治療法として確立されてきました。位置照合精度の向上により腫瘍に対しては高線量を与え正常組織に対しては線量を少なくするという放射線治療の最大の目的が、Adaptive Radiotherapy(腫瘍の形に合わせ線量を集中させる方法)という医療技術により開発されております。高精度放射線治療である強度変調放射線治療 (IMRT) はその長所の反面、様々な精度管理が重要となってきます。本研究では、精度管理の中で位置合わせの重要性について研究を行っていきます。

●対象

九州大学病院放射線科において 2012 年 4 月 1 日から 2013 年 9 月 30 日までに前立腺癌と診断された方に対して IMRT を行った 20 名の症例画像を用います。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

●研究内容

九州大学病院で 2012 年 4 月 1 日から 2013 年 9 月 30 日までで前立腺癌と診断され IMRT を受けられた方の放射線治療情報や画像を用います。この研究の目的はリニアック治療機器に装備されている腫瘍の位置が見える CT(kVCBCT)を用いた位置合わせの有用性を検証することです。

●個人情報の管理について

本研究の実施には、患者さんを特定できない画像データを使用し、実施過程及びその結果の公表(学会発表や論文等)の際にも、患者さんを特定できるデータは一切含まれません。また、データの二次利用は行いません。対象となる事を希望されない方は下記連絡先まで、ご連絡ください。

●研究期間

研究を行う期間は承認日より 27 年 3 月 31 日までを予定しております。

●医学上の貢献

この研究により、より正確なセットアップが可能となり治療成績の向上及び正常組織への被ばく減につながることから、医学上の貢献があると考えます。

●研究組織

研究責任者：

医学研究院保健学部門 ・教授 ・平田秀紀

研究実施担当者：

医学研究院臨床放射線科 ・教授 ・本田 浩

大学病院放射線科 ・准教授 ・中村和正

医学系学府保健学専攻 ・大学院生 ・永田弘典

医学系学府保健学専攻 ・大学院生 ・毛利一彩

医学系学府保健学専攻 ・大学院生 ・平島英明

連絡先：九州大学大学院医学研究院保健学専攻 平田 秀紀

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

Tel : 092-622-6762

E-mail : hhideki@med.kyushu-u.ac.jp